

の大部分を占めている。潜水艦救助計画が拍車になつた。1915年ハワイ沖でF4潜水艦事故沈没、1925年F51事故沈没、1927年S4(マサチューセツツ34m深沈没)、1937年スコラス号事故沈没、水深80-100mを救助に成功と前にもあつたが、1963年Thresher原子力潜水艦が2500m深に沈没を捜索、バチスカーフなどでその位置を調べた。1965年開発を更に進めるため救助グループDSSR-プログラムで6隻の潜水体(救助用)と5隻の潜水体(捜索用)を造ることになつた(1966-68年完成)。1965年ボーイング727がミシガン湖に墜落し、機体捜索。1966年スペイン沖に原爆機が衝突事故で20メガトンのを4個落とし、潜水体で捜索、引き揚げた。A. Picard が気球原理により水中ガソリン用球体をつけたバチスカーフを発明、1954年FRNS 3号で4000m潜れるのをフランスで潜水に成功、ついでアルキメデス号(仏)が1万メートル潜水、米国 Trieste I, II号づくり、マリアナ海溝1万1000mに潜水成功、5000m潜れる Alminaut も1964年9月から実用化の段階に入つた。5000m深潜水できれば世海中の大陸棚付近が調べられ、2000m潜れば世界海洋の20%、6000m潜れるとほとんど全海洋調べられる。1.1万m潜れると何処でも調べ得る。

潜水船発祥はフランス。Pegasas(仏)はデミトリ・ルビコフが造つた。速力18ノットまで。

イタリーでもあり、Sea horse I、II、III型ある。日本でも体当り特攻兵器で「伏竜」という似たのがあつた。SPDUにWet hull型、dry hull型(Alminaut, Trieste など)がある。写真、映画撮影できる。Sonarつけて走る。Alvin は pay load (浮力になる荷重)をおさえるとき、自重 W/D が深さによつて変る。潜水船で耐圧・プラスチック強化ガラス製の大へん小さい「スタイクヤスト?」を開発中。動力源を水浸でなく油浸を用ひ、鉛電池4倍充電(時間少ない)、経費は高い。STARI は燃料電池(水素、酸素)、熱電、電子管など使用。動力は電気利用の水中モーター使用。交流モーター…。Dolphin(ドイツ)という小潜水船が300-500万円で買え、30m深あたりで使用、水中スクーター(推進力10万円以下)も。

## 5 質疑応答

吉牟田長生(水産土木研)：設計したものを水中で組立てることが水中施設に必要とならう。

原雅巳(日本コロビア会社)：水中テレビ昭和31年より開発開始。1947年ビキニ、1949年ドーバー、1953年地中海コメツト機墜落。1963年水産用に普及性のある水中テレビを開発中で、感度良好、シリコン、トランジスター、コンノウト化、バッテリー電源、照明ライトは直流。水中でカメラおろしてどちら向いているかわからぬ。被写体との距離、海底との距離が問題である。(この項宇田道隆のメモによる)